

令和3年度 第2回三田市高齢者・介護審議会 会議録

- 1 開催日時 令和3年11月12日（金）14：00～15：00
- 2 開催場所 三田市総合福祉保健センター 2階 講座室
- 3 出席委員 足立会長、中井副会長、若林委員、今村委員、堺委員、大村委員、矢田委員、高見委員、土取委員、菟原委員、中田委員
- 4 出席職員 入江福祉共生部長、介護保険課：岸田課長、田畑係長、山本係長、いきいき高齢者支援課：西脇課長、久下係長、中村係長
- 5 傍聴人 0名
- 6 使用資料
【資料1－1】地域包括支援センター・高齢者支援センターについて
【資料1－2】各支援センターの主な取り組み状況等
【資料1－3】地域包括支援センター運営状況調査評価項目の各センターの対応状況
【資料1－4】地域包括支援センター・高齢者支援センター運営事業実績報告
【資料2】地域密着型サービスの実施状況、指定状況等について
【資料3】生活支援体制整備事業について
- 7 協議事項
(1) 令和3年度地域包括・高齢者支援センター事業の中間評価及び各圏域別の状況について
(2) 地域密着型サービスの実施状況、指定状況等について
- 8 その他 生活支援体制整備事業について

9 議事録

事務局	<p>予定の時刻となりましたので、ただ今から令和3年度第2回三田市高齢者・介護審議会を開会させていただきます。本日の司会を担当させていただきます福祉共生部健康推進室いきいき高齢者支援課の西脇でございます。よろしくお願いいたします。委員の皆さまにおかれましては大変お忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>それでは議事に入ります前に事務局よりご報告いたします。本日、藤原委員がご都合により欠席されます。次に、事務局につきましては福祉共生部健康推進室介護保険課、いきいき高齢者支援課から出席しております。</p> <p>本日の審議会につきましては、委員の皆さまの過半数以上のご出</p>
-----	---

	<p>席をいただいておりますので会議が成立していることをご報告いたします。つづきまして資料の確認をさせていただきます。</p> <p>【配布資料確認】</p> <p>それでは議事に入りますが、三田市高齢者・介護審議会規則第3条第2項の規定により、審議会の進行を足立会長にお願いしたいと思いますので、足立会長、よろしくお願いたします。</p>
足立会長	<p>それでは、次第に従いまして2、協議事項に移りたいと思います。（1）令和3年度地域包括・高齢者支援センター事業の中間評価等について。この議題については、事務局からの説明が必要と判断しますので、事務局説明から協議に移りたいと思いますがよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>【事務局より 資料説明】</p>
足立会長	<p>ただ今説明のありました内容につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら挙手をお願いいたします。</p>
菟原委員	<p>資料1のP3からP4の主な取り組み状況に地域課題の聞き取りをアンケートにより実施しているとありますが、地域課題はどのようなものがありますか。</p>
藍地域包括 支援センター	<p>アンケートは居宅介護支援事業所のケアマネジャー対象に実施しましたが、ごみ出しの問題や買い物、通院の際の交通手段などの課題が多くありました。交通手段がないためタクシー等にかかる費用に負担が大きいという声もありました。</p>
菟原委員	<p>以前からあった課題ですが、解決は難しいのですか。</p>
事務局	<p>ごみ出し等については、介護サービスでの対応が難しいことが多いですが、地域によっては住民がボランティア的な取り組みで対応していただいているケースもあり、より多くの地域でそのような対応ができる体制を整えていく必要があると考えています。</p>
菟原委員	<p>資料P5に相談事例の終結条件が共有できていなかったとあり、</p>

	<p>今後整備の検討を進めるとありますが、整備されている中で進められているものではないのですか。</p>
事務局	<p>評価項目に終結条件があるのは、相談件数が年々増加しており負担軽減のために一定の終結条件を定めて対応するためのものと思われるが、条件が明確に示されているわけではなく、各市で条件を定めているような状況である。どのあたりで線引きをするのか難しいところがあり、近隣でも定めている市は多くはなく、今後検討していきたいと考えています。</p>
堺委員	<p>地域包括支援センターの相談件数は今後、高齢者が増加していく中で増えていくと思いますが、人員配置はどう考えているのですか。また、地域によって差があると思うが高齢者人口によって配置を考えていただきたい。</p>
事務局	<p>地域包括支援センターの人員配置については、各園域の高齢者人口に基づく基準があり、その基準により人員配置を行っています。受託法人と設備の面など含めて調整しながら、配置していく予定です。</p>
堺委員	<p>今後、自宅での介護が増え、相談件数も増えてくると思われるので、そこを見越して計画を立てていただきたい。</p>
中田委員	<p>資料P3にSNSによる情報発信や各センターにおいて家庭でできるフレイル予防のチラシ等を作成して配布したとありますが、どの程度の効果があったのか、具体的にお示しいただきたい。</p> <p>また、コロナによる行動制限がある中での高齢者の実態についても合わせてお伺いしたい。</p>
事務局	<p>各センターが相談を受ける中では、外出機会が減少し、閉じこもりがちになっている方が増えている印象はあります。</p>
三田市地域包括支援センター	<p>社協のHPでいきいき百歳体操の動画を個人向けにアップしたところ、視聴が1,200件程度あった。コロナで自宅にいる機会が増えたことにより件数が増えたのではないかと思います。ただ、それぞれどんな風に取り組みられたかなどの後追いはできておりません。</p> <p>SNSの活用ができない人に向けてはDVDの貸し出しを行って</p>

<p>フラワー地域包括 支援センター</p>	<p>います。貸し出しの件数は伸びていませんが、3ヶ月後にモニタリングを行い状況の確認を行っています。</p> <p>以前から「ふらわー通信」という紙媒体の情報発信のツールがありましたが、コロナにより紙発信には限界がり、フェイスブックとLINEを始めました。フェイスブックは高齢者本人より家族が見られることが多く、家族から体操や集まりの情報を高齢者に伝えていただいています。LINEはお友達登録が現在200人程度で、高齢者の方も使いやすいようで、いき百やサロンの情報を得られているようです。高齢者の方も8割程度がスマホを持っておられますが、使い方が分からないという声もあり、先月、弥生が丘のいき百グループに対して、生活支援コーディネーターと連携しスマホの使い方の出前講座を実施しました。高齢者が自宅に居ながらスマホで体操ができるように取り組んでいきたいと考えています。</p>
<p>ウッディ地域包括 支援センター</p>	<p>HPでいきいき百歳体操の動画を配信しています。また、自宅でできるいきいき百歳体操のパンフレットを今まで配架していなかった銀行や薬局、大型商業施設にも置くようにしました。</p>
<p>藍地域包括 支援センター</p>	<p>紙媒体でパンフレットを作成し、商業施設や薬局等に置かせていただいています。持ち帰る人が少ない状況となっており、配布方法等を検討する必要があると思っています。</p>
<p>中田委員</p>	<p>SNSを使える人はいいですが、8割の高齢者がスマホを持っているということですが、使いこなせているのか。家族を巻き込んでいることはすごいことだと思います。私の施設に来ている人の中にも認知機能の低下が進んでいる人がいます。今、地域でのつながりが遮断されているので、SNSで伝わらない人へはフォローが必要です。要介護状態にならないためにもお願いしたい。</p>
<p>大村委員</p>	<p>資料P1主要事業の1つに地域包括ケアシステムづくりがある中で、地域包括が始まったころは介護保険の分野しかなく、今は地域共生社会というキーワードの中で包括という言葉が色々なところででてくるようになりました。高齢者だけではなく世代を超えて地域まるごとという意味で使われることが多くなっているかと思えます。いこいの家さんだについても高齢者から始まり子どもが集うなど色々な方の集いの場になっています。地域包括支援センターが地</p>

	<p>域まるごと地域共生社会の実現ということが計画にも書いてある中で、普段の相談や地域ケア会議、ケアマネ向けのアンケート、よろず相談など高齢者の枠を超えて入ってくる情報にどのようなものがあり、どのように関わっておられるのかお聞きしたい。</p> <p>入口は高齢者支援から始まっているが、結果的に世代を超えた方からの相談があったり、高齢者向けに始めたが他の方の集まりが始まったり、意図していない事が始まっていることがあるかということを知りたい。元々計画の中に三田安心ケアシステムを中核的な基盤として縦割りや支え手という関係を超えて共生社会の実現を目指すとして書いてあるので、今高齢者支援という看板を掲げながら色々な業務を行っていますが、よろず相談やケアマネさんへのアンケートなど高齢者だけでなく一緒に暮らしている人のことが含まれているケースがでてきているのかということをお聞きしたい。</p>
<p>三田市地域包括支援センター</p>	<p>高齢者に関わる中で家族に引きこもりの方や障害の方がいる場合など、その方たちの支援がうまく繋がらない場合がある。そのような場合に包括としてどのように繋げていくか難しいと感じています。</p>
<p>足立会長</p>	<p>私の理解ですが、地域包括ケアシステムが目指しているものは、これまでは介護保険ですべての高齢者の問題を解決しようとしていましたが、それだけではなく、地域全体で支えようというものです。ここで地域包括支援センターに聞くというより、市全体として地域包括ケアシステムについてどのような体制をとっているのかと聞く方が答えやすいのではないかと思います。地域包括ケアシステムは介護保険を支える最大の理念で、それ自身が国や県、地域にどこまで浸透しているか怪しい。今、事務局に答えを求めるとは酷だと思います。</p>
<p>中田委員</p>	<p>私たちはNPO法人でボランティア主体で活動している「いこいの家さんだ」という高齢者のデイサービスを行っていますが、子ども食堂など色々やることになり、色々な方がボランティアとして集ってくれています。障害の方で65歳になると介護保険になり、それまで4回サービスを利用できていたのが1回しか利用できなくなりました。昼間1人でいることになり、包括から相談がありました。高齢者の施設に知的障害の方が入っても大丈夫かということだったが、利用者みなさんが面倒を見てくれて、上手くいっていま</p>

	<p>す。これは地域で支えるということにつながっていると思います。</p> <p>また、若年性認知症の方も「いこいの家」に来て、庭の手入れ等のボランティアをしてくれていますが、一緒についてくれる方とお話しをしたり食事をしたりといきいきとされています。これも地域でできる支援なのではないかと思っています。</p> <p>ほかにも、高校卒業後18年間閉じこもりの男性がこども食堂の調理に来てもらうことになりました。最初はレタス1枚洗うのに何分もかかるような神経質だった子が色々な事を任せられるようになりました。人と一緒に何かをすることで変わっていきました。</p> <p>それぞれの地域での活動に繋ぐということが大切だと思います。そんな受け皿を地域でたくさん作ることで包括ケアシステムということができると思って、やれることを頑張っています。子どもの方でも色々な家庭があり、構ってもらえない子や母子家庭で親の帰りが遅くなり夕飯が食べられない子もあるがここに来ることで、色々なつながりができ、逆にボランティアがいきいきとすることもあります。</p> <p>まさに色々な試みを積み重ねていくことが包括ケアシステムという意味だと私も理解しています。</p> <p>資料1-3はそれぞれのセンターの活動状況をビジュアルで見せてくれているが、次頁の評価項目がどうだったら何ポイントなのか。</p>
足立会長	
事務局	<p>今回、別紙に記載されている評価項目の内、どれだけの項目ができていくかということグラフで表示するために、単純にできている割合を表記しているものです。</p>
足立会長	<p>理由のあるものとないものがあると思うので、ただ列挙するだけでなくもう少し工夫をしていただきたい。</p>
足立会長	<p>次に(2)地域密着型サービスの指定状況等について、この議題についても事務局からの説明が必要と判断しますので、事務局説明から協議に移りたいと思いますがよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>【事務局より 資料説明】</p>

足立会長	<p>ただ今説明のありました内容につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら挙手をお願いいたします。</p> <p>【意見なし】</p>
足立会長	<p>それでは、3その他に移ります。</p> <p>(1) 生活支援体制整備事業について、事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>【事務局より 資料説明】</p>
足立会長	<p>ただ今説明のありました内容につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら挙手をお願いいたします。</p>
大村委員	<p>前回、地域包括支援センター自身の認知度が下がっていることに対する対策についてお聞きしましたが、生活支援コーディネーターも住民に存在を知ってもらっていないと相談されることがないので、社協としても広報媒体等を使ったり、コーディネーター自身が自分の業務の中で活動を知ってもらうようにしている部分もありますが、市として生活支援コーディネーターのPRをどのようにしようとしているのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>生活支援コーディネーターについては、市では介護保険制度改正時の総合事業制度説明の際にあわせて紹介してきました。今後は、地域包括支援センターで地域ケア会議を開催していく中で出てきた地域課題に対応するために、コーディネーターの協力を得ながら地域での支援体制を構築していくことになり、重要な役割と考えているので、コーディネーターの活動が円滑に行えるようにするには、どのような周知方法がよいのかコーディネーターと相談しながら取り組んでいきたいと考えています。</p>
堺委員	<p>要望ですが、生活支援コーディネーターは地域福祉支援員と兼ねており、高齢者と地域全体を見ていかないといけないということで、多彩な活動をされており、オーバーワークになっているのではないかと思います。きめ細やかに福祉を推進していくためには、人材と時間的な余裕が必要だと考えているので、将来的には分離する方向で検討していただきたい。</p>

<p>中井副会長</p>	<p>コロナ禍の中で国は何もしてくれないし、支援センターは大変な苦勞をされていると思います。各支援センターの方は言いたいことはたくさんあると思うし、要望などたくさんあると思うが、報告書には出てきていませんが、どうですか？何もないですか。</p>
<p>三田市地域包括支援センター</p>	<p>今はコロナの事も分かるようになってきて対策ができるようになってきましたが、初期の頃は相手の状況も分からない中、訪問しなければならず、もう少し事前に対策ができないかと感じていました。また、対応方針も各施設に委ねられており、施設の中で検討していましたが、もう少し他との共有ができていればと思います。</p>
<p>中井副会長</p>	<p>今なら市販のキットをみなさんが使える状態になっているので、訪問に行った際にまず抗原テストをして、5～10分で結果はでるので、陰性なら感染するリスクは低いので、そこからスタートすることができるのではないのでしょうか。そういった方法が三田市でできないのでしょうか。これは自分の意見なので、他の人の意見もお聞きしたい。</p>
<p>フラワー地域包括支援センター</p>	<p>コロナ感染症拡大の状況で訪問活動を継続しないといけない中、調子が悪いので見に来て欲しいと連絡があり訪問した方が翌日コロナの陽性であると判明したことがありました。その時担当した職員が濃厚接触者にあたるのか、保健所に確認を依頼することがあり、怖い思いをした経験がありました。私たちは支援が必要な場合は相手が拒否されても訪問する必要がある立場なので、検査で陰性になったから訪問するというのは難しいと思います。私たちも感染対策を講じた上で訪問しますが、感染リスクと隣り合わせで仕事をしているという危機感は常にあり、コロナの感染拡大の期間中はプライベートにおいても行動の制限など厳しい思いをしてきました。</p>
<p>中井副会長</p>	<p>濃厚接触はこれまで保健所が認定してきたが、今は医療関係者が認定すれば検査できるようになったことはご存じですか。</p>
<p>フラワー地域包括支援センター</p>	<p>当時は保健所の判断で濃厚接触者でないということだった。</p>
<p>今村委員</p>	<p>公費負担とは別で、独自でするなら自由にできます。</p>

<p>中井副会長</p>	<p>コロナの申請をしている病院であれば、その医者が濃厚接触者だと認定できます。どこの病院かは保健所に聞けばわかります。</p>
<p>ウッディ地域包括支援センター</p>	<p>濃厚接触者にはならなかったのですが、病院から退院されて陰性ではあるが待機期間中に訪問させていただいたことがあり、訪問した職員の精神的な負担が大きかったです。</p> <p>また地域の方で、家族に濃厚接触者がおられ、待機期間中の訪問について相談があり、対応を相談しながら、感染対策に気を付けて対応していました。</p>
<p>中井副会長</p>	<p>二週間たって発症しなければ検査はしません。国が決められているのは発症してから10日たつと感染力はなくなるということで、退院するときにはPCR検査はしません。ウィルスは0ではないので、絶対感染しないということはないが、国の基準ではそうなっているので、それを信じるしかありません。</p>
<p>藍地域包括支援センター</p>	<p>どう対応していいのかわからないと迷うことがあります。市に聞いても保健所に確認しないとわからないということで、どこから指示をもらえばいいのかわからず、判断に困りました。</p> <p>また訪問する際はそれぞれのセンターごとに方針を決めて行っていたと思いますが、今後は共通の方針があってもいいのではないかと思います。</p>
<p>中井副会長</p>	<p>ガイドラインについては、個人的な意見だが、作らない方がいいと思います。三田市でもガイドラインに基づき、濃厚接触者と認定されなかったで、全員に検査をしなかった。結果感染者は出なかったが、どうなのかと思います。</p>
<p>今村委員</p>	<p>濃厚接触者の特定は聞き取りを行い、濃厚接触者にあたるか、接触者にあたるか認定しています。</p> <p>学校等については、いじめにつながる可能性もあるため、対応については、判断を学校に任せている部分もあります。</p> <p>ワクチンを打っている中で症状が出ない方もあるので、感染対策は充分にさせていただき、相手が大丈夫な場合でもマスクを着けていただくなどが最善の方法だと思います。</p>

中井副会長	<p>コロナのキットに予算を置いて、各センターに配布して欲しいと思っています。</p>
今村委員	<p>陽性でも感染力がないものもあるが、検査はそこまで対応していないので難しいと思います。</p>
足立会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の課題を含め地域包括支援センターの運営状況について説明を聞くことがこの会の内容ですが、地域包括支援センターの課題や問題についても、私たちがどこまで解決できるか分かりませんが、話し合いができればいいのではないかと思います。</p> <p>それでは本日の議題は以上になります。</p> <p>委員の皆さまにおかれましては、長時間にわたり熱心にご審議いただきありがとうございました。進行を事務局へお返しします。</p>
事務局	<p>足立会長、ありがとうございました。また、委員の皆さまにおかれましても、活発にご審議いただきありがとうございました。</p> <p>次回の開催は令和4年3月を予定しておりますので、よろしくお願いいいたします。</p>